

・京都府警連 二千名
 同志社一部投放、二部を
 立命館大文ストその他
 ・大阪府警連再建準備隊
 四百名(一五〇名)

4月21日

・東京 地区又戦 千名
 共産 〇〇〇名
 共産 〇〇〇名

・西田 西田義徳連隊 千名

4月28日

・東京 共産 千名
 (共産 〇〇〇名)
 共産 〇〇〇名

5月11日(土)6時
 於・明大本校学生館下階

情勢の特徵一國
 際階級斗争の一
 週的均衡局面一
 日米の攻撃的階
 級斗争による概
 制的帝國主義政
 治の破綻とソビ
 エト建設とソビ
 エト党の任務

4月28日中野斗争の重くは反カミ
 斗争の重くは他ならなかった。
 この斗争をこれと見なした直
 接的原因としての政治的統一戦
 線の4月1日於ける大変化は、テ
 ト攻撃一米帝支配の初陣一日本
 マリア後進の初陣一王子成田三
 幸次主要に形成した。國際階級
 斗争の一週的均衡局面とその突
 破口をのぐる階級関係の再編に
 ついた。すなわち、帝國主義ナショナ
 リズムと小ブル民主主義の結合
 の結果一反戦反安保野党連合政
 府コースと世界革命一を口独へ
 至る帝國主義軍隊解体の斗争と
 のほぼ完全分化であり、その
 結果としての中間諸潮流の赤化
 再編である。
 4月28日斗争の一定の結果と限界
 とは、この均衡局面を破壊して
 いる。
 この均衡局面は主要に次の要
 素によって形成されている。

オーストリア、六人の大統領候補
 がいずれの安全圏内にもない
 ことに象徴されているように、米
 帝の反動的和平主義的エス
 コレートは北緯35度の南緯
 35度の間に反戦斗争収約、ド
 ンホルツと西白へのなぐり
 2つの世界戦端の主観的願望
 が、キンマ師暗殺を代りに
 った全米の黒く反乱とそれに
 みるコトス白衛を腐敗とした
 4月下旬反戦斗争の準備によ
 って挫折のみこみおぼろしく
 いること。準備されている金
 融貸は、改訂帝國主義との石
 場再分割戦が、巨大な過剰生
 産恐慌を準備し続け、なし崩
 し勢の形成から、NATO
 の、安保をのぐる政治軍事的
 対立を不可避としていること
 の表現に他ならぬ。このた
 りには、日帝の再分割を強
 占と捕獲基地確保(有事後々
 ちのみ返還構想)によって封
 じこつ、日中間の小型平
 和共存と米ソ平和共存を楯完
 し、この上になつて国内階級
 関係を反動的に一等に作り戻
 すことを前提とする。従つて
 現在、4月28日革命との結合
 から米帝國主義軍隊解体と米
 帝打倒を展望しているSNC
 C、SDDなどの日米安保に
 対する態度は露骨に釘を刺さ
 っている。
 オーストリア、資本の自由化、米
 民向長期資本投入によるア
 ジアへの国家資本輸出資金獲
 得と米資本(在米企業)に抵抗
 する試みへ(八幡と富士)、自
 動車(いすゞと三菱)など金
 融資本タラシと志を、
 合同及び銀行の集中合併と前
 者への再結合(金融寡頭制安
 定の確立)、社会資本の充実
 一運輸交通通信部門の合理化
 と中小企業、農業、漁業、軽
 工業の打捨一後進回への輸出
 (垂直結合)の同時的遂行を
 以て準備している日本マルジ
 ヲワジの向題である。昨年の
 台湾、東南ア、オーストリア
 おける内借款あるいは援助供与、
 一月再建、三月スハルト、四
 月オーストラリア首相呼びつけ
 と7月ASAPAC会議へ向けて
 東南ア太平洋のなし崩し勢力圏
 形成は、まさに強固国防相から
 の反革命干渉要求の手段に最も
 効果に表現されているように、
 并行者国家と結合した後進國
 水統革命への全面的反革命をな
 しつる侵略軍隊の確保なしには
 行いえない。米帝のアジア支配
 の動機につけては、反動的和平
 一まさかえしに對し、救しい再
 分割を進める日本にとつて口
 前のごとアジア後進、帝國主義
 軍隊化を軸とした階級関係再編
 が急務に要求され、そのことが
 諸階級、諸階級の相別斗争と全
 人民的政治斗争としての反戦斗
 争の昇場と結合を生み出し、エ
 ンヌラー王子一成田と民社公明
 社会共産に至るなれど反政府戦
 争を形成し、遂にマルジョワジ
 一を一時的に引きつらうさせてい
 るのである。そうして局面から
 のマルジョワジの突破口こそ
 4月28日の初陣を遂げ、ち
 月中、下旬日米安保改訂を軍
 事顧問委員会を設置し、初陣をア
 ジア侵略前線基地として獲得す
 るため成田三幸次長官指揮を米
 次官級人物を含めて外ハ省を強
 硬にし、その取組をさつて7月
 ASPAC、日米貿易研究会ギ
 として多月断米を仕上りを行い
 これを以て中国を何喝し、孤立
 したアジア後進回革命の粉砕と
 国内反政府戦線の全面的解体と
 変質の一歩的遂行にある。4月
 斗争(1)に於て状況下にあって
 ののである。
 オーストリア、中国一北とオーストリア
 解放戦線一日本の反戦斗争、の
 無方針のためである。反米主義
 一体制向矛盾論と周辺革命論の
 限界は、まさに、垂直結合一帝
 國主義と民族マルの總着、

この口の自國マル打倒、*帝國主義軍隊打倒、米南打倒の系統的、
↓米南の反革命とそれに對し、
↓岩倉者國家の根柢地國家化への
船載↓それによる後進國革命の
準備、系統化↓無進國反戦斗
争を以てさかとして、帝國主義の
政治的軍事の對立が開始され、
この下での侵略、反革命を媒介
としての根柢地國家、後進國
永続革命との結合の問題が、
政治的軍事のナショナリズムに
對するマル打倒、世界同時革命に
何なるか、その一環として遂に
无進國階級斗争が岩倉者國家、
後進國のそれと最終的に規定す
る時代に突入したことに全く無
自覚な存在として現れる。

金融寡頭制支配を基礎とした
帝國主義の全社会的組織は、諸
階級、層の別別斗争の基礎を極
度に拡大するが、帝國主義向の
政治的軍事の對立とこの下での
侵略反革命を媒介とした岩倉者
國家、後進國永続革命と无進國
革命の危機の結合へ向かう全抗
派の下で、自然改良的「反戦斗
争」へ「生産者への喪失の代償と
して反革命」「反米」「反日、國
際階級斗争の均衡局面を自然改
長的に反力問題へ「反戦、反安
保野党連合政府」「中政府」へ
と進み、マルの対米自主防衛略
線と適合することによって、こ
の小マル民主主義は、経済的破
産の深化を政治過程でなし給し
的にひきのびす役割を果し、帝
國主義軍隊を稱とした階級関係
の一挙的崩壊を反革命の勝利と
して準備する社会非民主派に轉
化する。

これらの事態こそ、今次春斗
前段に於て、東支、國共、北九
州而臨竹などのストライキと共
断隊による暴力的崩壊の萌芽が
あり、また四省、全干など行動
隊建設をもつて急進化していな
がらも、最終局面を私鉄、國鉄
（文匯天斗）のストは混乱なく
撤回されたこと理由である。

また、私鉄、國鉄の社員に
よる暴走で当然予想され
た、不満をこらした岩倉者の刃
日の斗争への結果が、それに
反して少なかったのはこの理
由による。10月エンズエリ
別別斗争の反戦斗争への反拘
の段階から、米南の初強、日
帝の殆どを奪って、反戦反安保
野党連合政府、中政府へ向
かう社民のガンルニア斗争が
ますます岩倉者人民とは無縁
な方向に飛翔してあり、暴力
を喪失していることである。
従って社民はますます強く
全連連、反戦の介割支配を徹
し、これを通じて実体を強く
うとしていく。

江田、打改左派、全回反戦
争事務局は解散派を吸収しつゝ、
あるのに対し、木田、研會派
は、社会党青年部、地区党を
通じて地区反戦をパクリ、中
二反戦の展望を実行しつゝ、あ
る。解散派は、東京地本向駐
を改会の極端に屈服しつゝ、
打改左派と癒着して合法反戦
建設へと進み、中核、マント
系反戦及び全連連の排除をね
らいつゝある。
こうして状況を典型的に示
したのが4月、4月斗争であ
る。

前者は、打改派が機関刊
業を襲まり、EとEに對し
マロツクを組外、米大坐りこ
みと日和り、自憲とのボス交
によるスキマ橋坐りマオ集會
に解消し、社会党江田派議員
の発言に終極し、全連連が管
轄の壁を打ちこむに注いで突破
してきたにもかゝらう発言
をせつた。
4月には、協会が四千八地方
を主として動員し、打改、解
散派ほとんど参加しなかった。
解散派の論議を欠いた下か
うの合法的党の型は、日本に
あける双方斗争の開始への基
盤が醸成されるまでにこの時

完全に行伯者人民の戦線から戦
線を余儀なくせられたのであ
る。

さて、米南、日南、中國、北
々下ムー解散派線、反戦斗争
の三つの要素から形成されてい
る國際階級斗争の均衡局面をか
く設定した上で、4月防衛斗
争に於て我々が萌芽的に実現し
たその攻撃的突破、革命の展望
を語らう。

二つの羽田斗争以降、破防法
一騒乱罪などに主として集結さ
れたマルジョフキヤンペーンは
4月に入るや加藤、安保、AS
PACを前面に出して来た。

これに對する我々の捷足した
防衛斗争こそ、それによつて
ひきあふれにマルジョフ政府
の動議と狂気の如き弾圧の過程
を通じて、岩倉者人民の関心を
侵略と各條に集結させたのであ
った。

革命的な反戦斗争という戦術形
態と中核、全回を結ぶ大衆的突
刃斗争形態とは、まことに日本帝
國主義に對する双方斗争を表現す
るものに他ならず、我々の粗
紋、運動路線がそれらになつて
はあまりにも未熟だ、Eが政に
マルジョフ支配の初援口、我々
自身の動議に直結したのであ
らう。

この結果は、マルジョフジ
の親米反革命政治から、本格的
帝國主義政治への転換をひきだ
し、それ、未だに小マル民主々
派をバツコせしめている。かく
して均衡局面は成就してきている。

我々はこの均衡の再度の全力
をこつての突破を7月ASPPA
（去年初議日米會議）佐藤前
米に設定し、革命的な反戦斗争
と大衆的突刃斗争を以て機軸隊
を粉碎し、自衛隊をひき出し、
反革命政治から帝國主義政治へ
の転換をかわさう、膨大に登場
した大衆的突刃斗争の準備、
日帝の侵略反革命に對するア
シア人民とともに攻撃戦を帝國

